令和３年度　全学共通科目に関する調査（学生対象）

調査概要　全学共通科目のうち「社会人基礎力入門」,「初年次ゼミ I」,「初年次ゼミ」,「自己と社会・地域論」,「初年次ゼミ II」の 5 科目について，学生を対象としたアンケート調査を実施した。調査では，授業内容に関する 5 項目について 5 段階の自己評価で理解度を測るとともに，講義前後の変化について 2 択で測った。また，学生自身がより修得したい，もしくは修得する必要があると思う内容について自由記述を求めた。調査にはマナバコースのアンケート機能を用いた。

調査時期　前期調査：2021 年 7 月（15 回目授業）
後期調査：2022 年 1 月（15 回目授業）

調査対象　大学 1 年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ I」「自己と社会・地域論」「初年次ゼミ II」
短期大学部 1 年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ」「自己と社会・地域論」
※ 留学生は「社会人基礎力入門」「自己と社会・地域論」を 2 年次に受講するため，対象は短期大学部 2 年生となる。

調査内容　科目ごとにシラバスの到達目標をまとめた 5 項目の設問について，「全くできていない」,「あまりできていない」,「どちらともいえない」,「ある程度できている」,「よくできている」の 5 段階で回答を求めた。また教育前後の変化を把握するため，前述の理解度について「講義前から変わらない」,「講義前より力がついた」のどちらかで選択回答を求めた。

社会人基礎力入門

1. 社会人に必要な基礎学力である「読む・書く・聞く」力の重要性を理解している
2. 正しい敬語を使うことができる
3. 社会人マナーについて理解している
4. 社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の重要性を理解している
5. 情報社会に必要なリテラシーを身につけている

初年次ゼミ I

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 収集した情報をルールにのっとって引用することができる
4. 根拠に基づき自分の考えを主張することができる
5. 基本的な構成に沿って、体裁を整えたレポートを書くことができる

初年次ゼミ

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 基本的な構成に沿ったレポートを書くことができる
4. プレゼンテーションのための資料(スライド，ハンドアウトなど)を作成できる
5. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる

自己と社会・地域論

1. 自己理解、他者理解を深め、円滑な人間関係を築くことができる
2. ストレス・コントロールの方法を理解し、実践できる
3. 徳島県の地場産業や企業の特徴を説明することができる
4. 地域貢献活動の目的や必要性について、自分の考えを述べることができる
5. 積極的に意思を表明し、グループワークに貢献できる

初年次ゼミ II

1. 自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる
2. プレゼンテーションのための効果的な資料(スライド，ハンドアウトなど)を作成できる
3. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる
4. グループの中で共通理解が得られるようにディスカッションすることができる
5. ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる

全科目

自由記述「科目の内容であなた自身もっと学びたい，また時間をかけて学ぶ必要があると思う内容を書いてください」

調査結果

各科目のアンケート回答者数、自由記述回答者数は下記の通りであった。

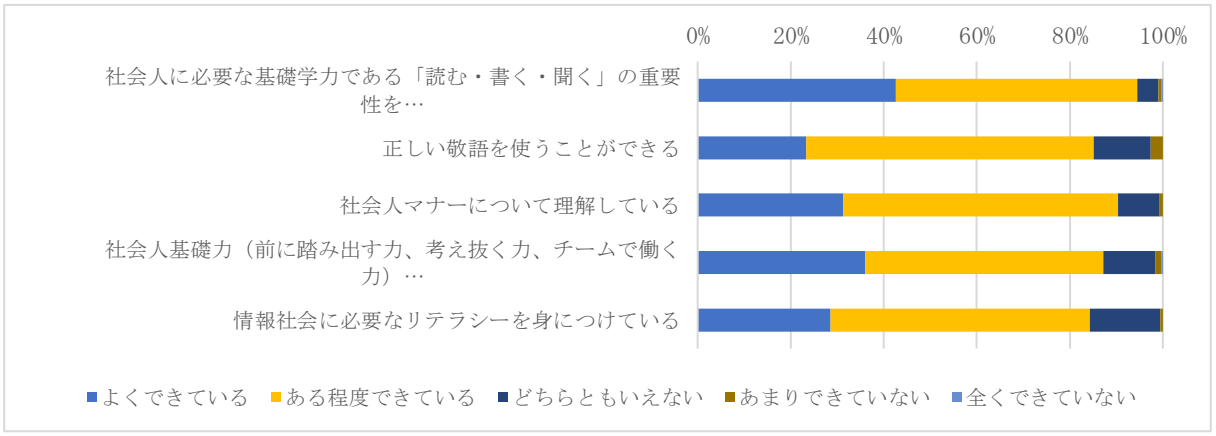
科目名	回答者数（大学）	回答者数（短期大学部）	回答者数（全体）	回答者数（自由記述）
社会人基礎力入門	325	91	416	198
初年次ゼミ I	363	-	363	195
初年次ゼミ	-	103	103	45
自己と社会・地域論	385	62	447	163
初年次ゼミ II	411	-	411	171

結果の概要

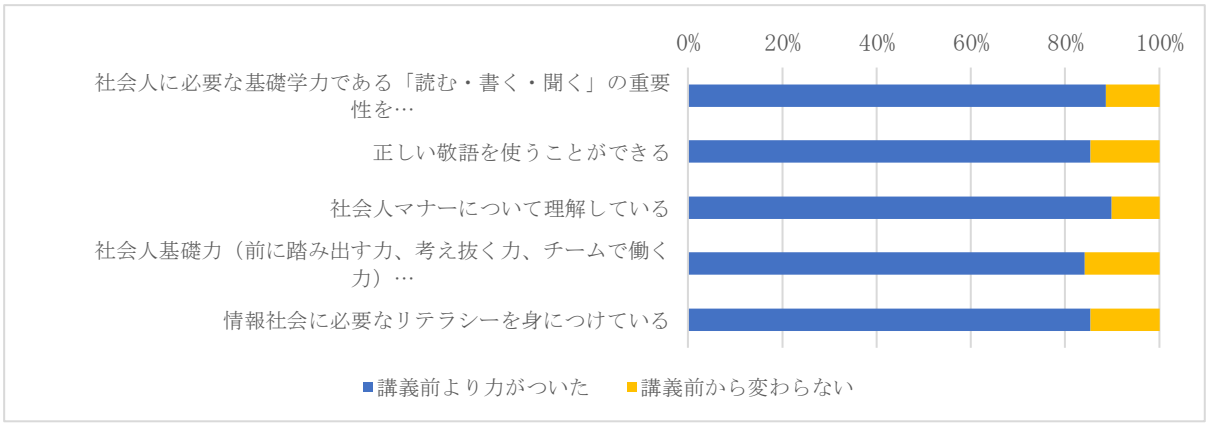
１．学修内容の理解度

【社会人基礎力入門】

5 項目全てで「よくできている」「ある程度できている」の肯定的回答が 8 割を占めていた。特に，社会人に必要な基礎学力「読む・書く・聞く」の重要性と社会人マナーについては 9 割以上の学生が肯定的に回答した。否定的回答は，5 項目全てにおいて全体の 3%未満であり，概ね学修内容を理解・修得していると考えられた。またすべての項目で 8 割以上が「講義前より力がついた」と回答した。



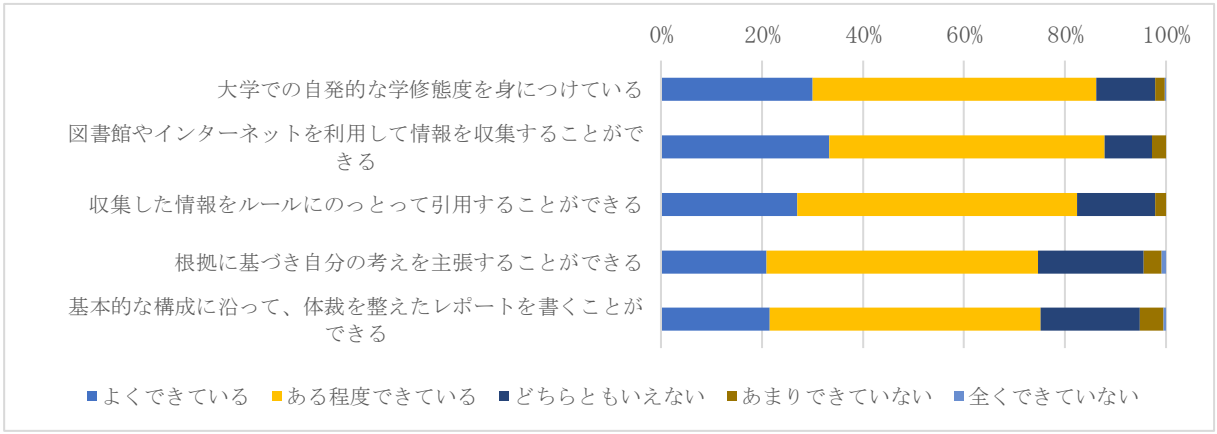
図．社会人基礎力入門の学修内容の理解度



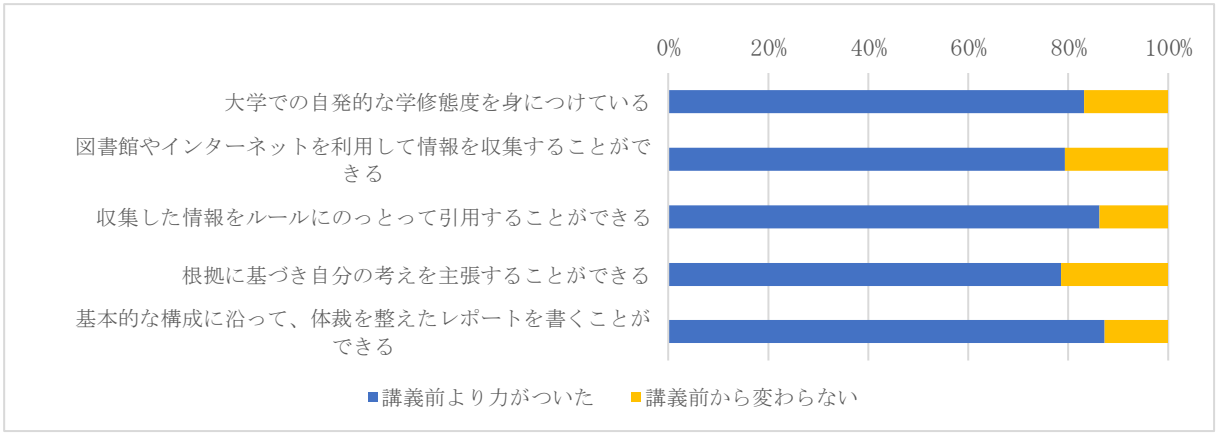
図．社会人基礎力入門の講義前後の変化

【初年次ゼミⅠ】

5項目の設問のうち〈根拠に基づき自分の考えを主張することができる〉と〈基本的な構成に沿って，体裁を整えたレポートを書くことができる〉については「どちらともいえない」もしくは否定的な回答が約25%を占めていた。初年次ゼミⅠはレポートの書き方の基本を初めて学ぶ授業として位置づけられ，ここから実践を重ねることによって理解度がさらに高まるものと期待される。



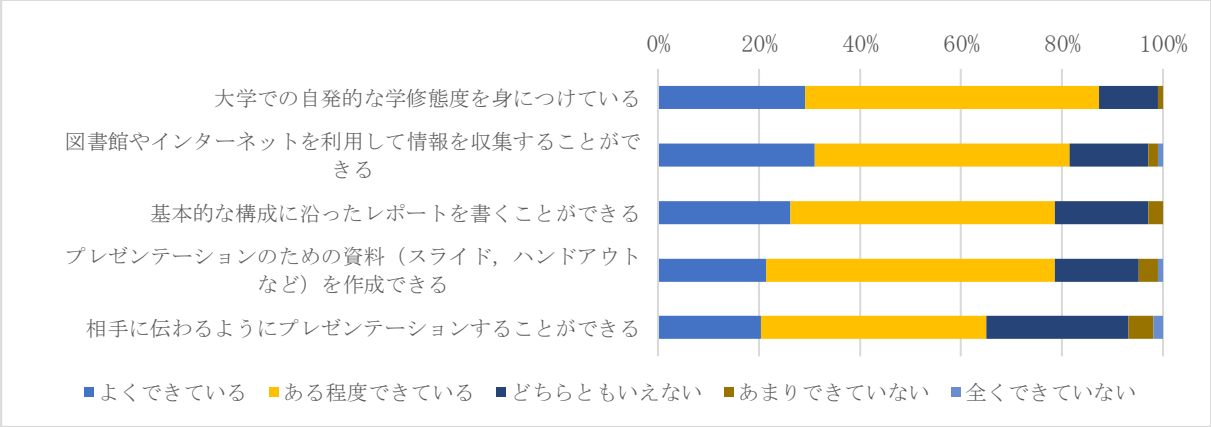
図．初年次ゼミⅠの学修内容の理解度



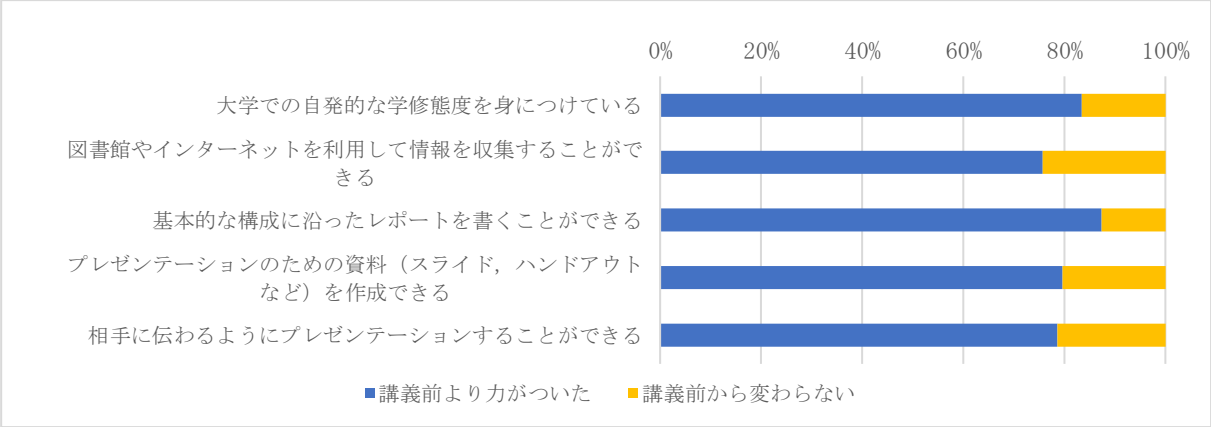
図．初年次ゼミⅠの講義前後の変化

【初年次ゼミ】

後半の内容に進むに従って否定的回答の割合が増加していた。特に，〈相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる〉では否定的回答と「どちらともいえない」が全体の 35%を占めており，苦手感を感じる学生が多いことが伺えた。情報収集とプレゼンテーションに関する 3 項目は他の 2 項目よりも自身の力が「講義前から変わらない」と回答した学生が多かった。短期大学部には留学生を含むバックグラウンドの異なる学生が在籍しており，学力の差が大きく，難易度の設定が課題である。



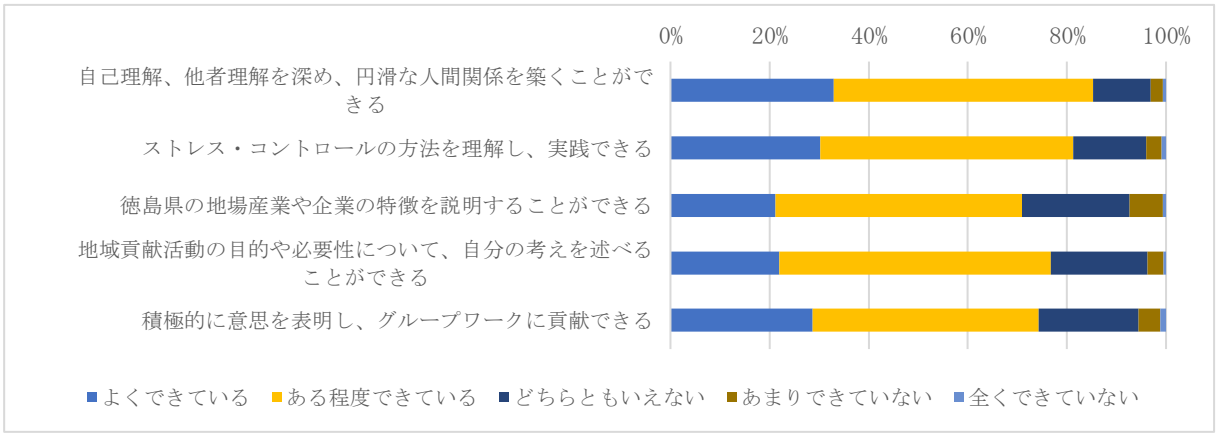
図．初年次ゼミの学修内容の理解度



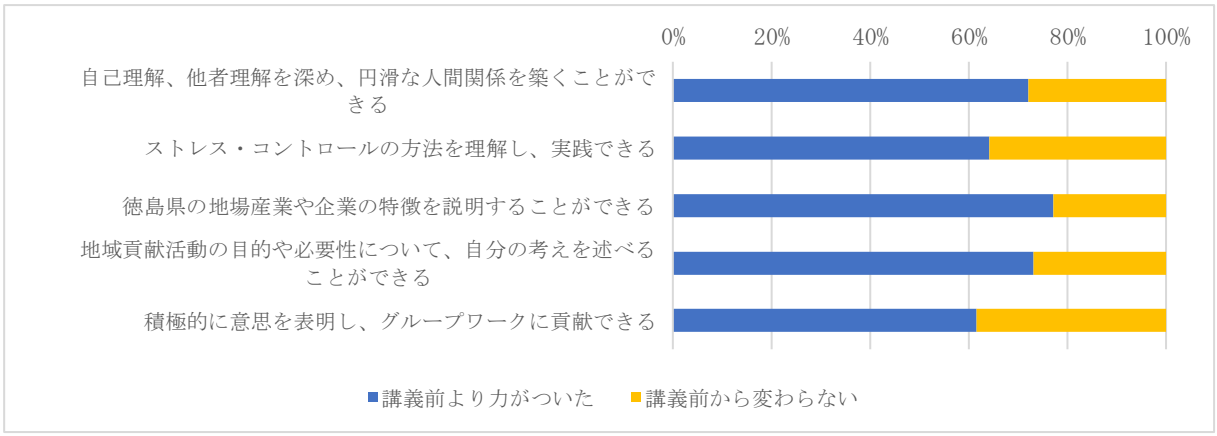
図．初年次ゼミの講義前後の変化

【自己と社会・地域論】

前半の「自己論」では 8 割以上，後半の「社会・地域論」では 7 割以上で肯定的な回答が得られた。ただし講義前後の変化については他の授業に比べて「講義前から変わらない」の割合が高かった。ワークを多く取り入れる授業内容であるものの，さらに修得の実感を高める工夫が必要である。



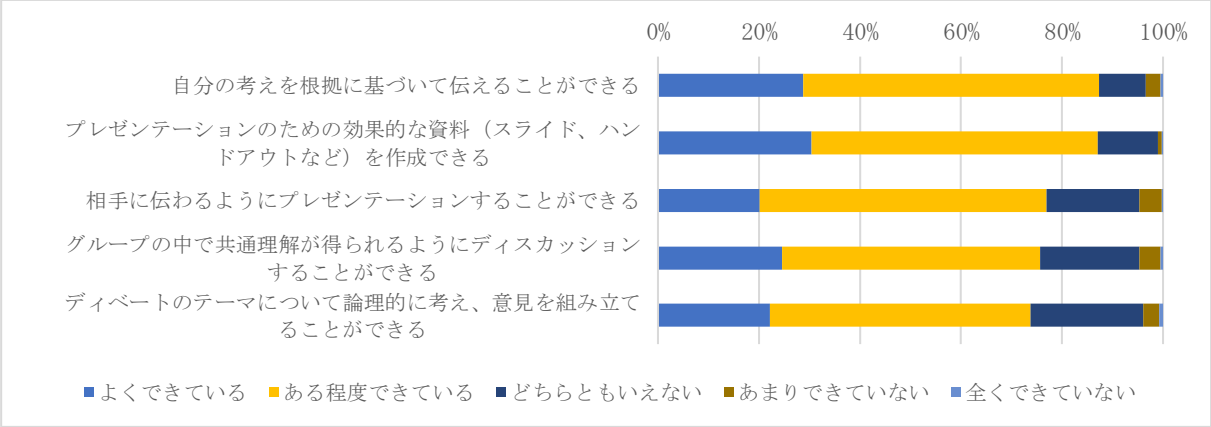
図．自己と社会・地域論の学修内容の理解度



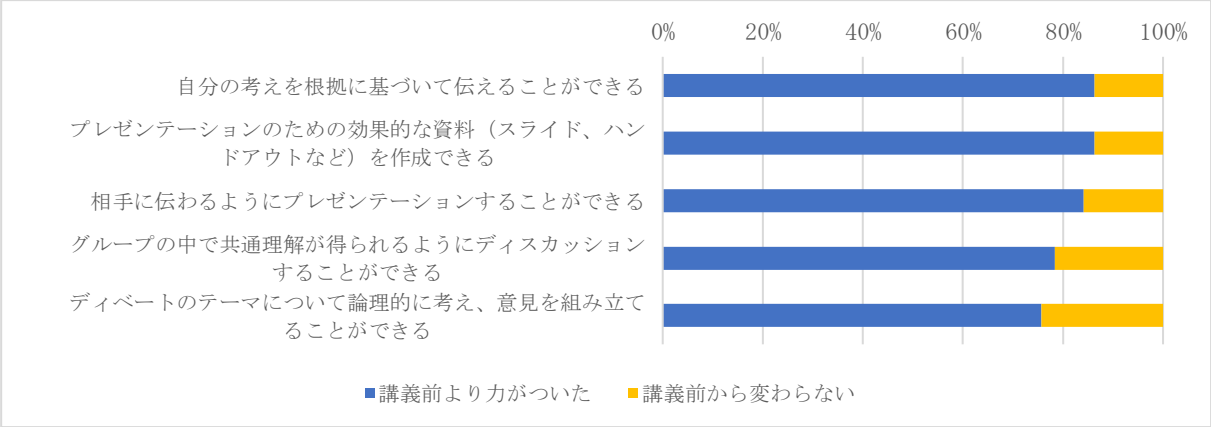
図．自己と社会・地域論の講義前後の変化

【初年次ゼミ II】

〈自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる〉と〈プレゼンテーションの為の効果的な資料（スライド，ハンドアウトなど）を作成できる〉では肯定的回答の割合がともに 87%を占めていた。一方でプレゼンテーション，ディスカッション，ディベートの実践に関する項目では，自己評価の難しさからか「どちらともいえない」の回答が一定数見られた。初年次ゼミ I と同様，プレゼンテーションやディスカッションを身に付ける最初の授業であるため，十分に修得できていると実感した学生は少なかったと考えられる。



図．初年次ゼミ II の学修内容の理解度



図．初年次ゼミ II の講義前後の変化

２．自由記述内容

【社会人基礎力入門】

最も多く出現した語は「敬語」で，「学ぶ」「使い方」「正しい」「必要」といった語と結びついていた。「学ぶ」と関連付けられた語としては他にも「マナー」があり，授業後半の主な学修項目である敬語とマナーについては，さらに学ぶ必要性を感じていたといえる。敬語やマナー以外の学修項目としては，「言葉遣い」，「コミュニケーション」，「電話」「対応」，そして経済産業省の定義する社会人基礎力である「考え抜く力」「チームで働く力」が出現した。「就職」や「社会」「出る」「上司」などの語と結びついており，科目名の通り，いずれ社会にでることを想定し，必要な力を身に付けたいと考えていることが伺えた。

【初年次ゼミ I】

「レポート」や「論文」の「書き方」をもっと身に付けたいという意見が大半であった。その中で正しい言葉づかい，文章構成，引用の仕方，要約，自分の主張や意見の組み立てなど特に身に付けたい内容の詳細は多岐にわたっていた。

【初年次ゼミ】

学修項目としては「レポート」に関する記述が最も多く，「難しい」「困る」と関連づけられていた。一方で「発表」については件数が多くはなかった。これについては，初年次ゼミでは必ずしもパワーポイントでのプレゼンテーションが課されるわけではなく，人前で話したり文章を読み上げたりする形式で実施したクラスもあり，その影響があると思われる。短期大学部には留学生が多く所属しており，「日本人」という語が見られた。「日本人」と学べてうれしかった，「日本人」ともっと話したいといった意見が書かれていた。

【自己と社会・地域論】

前半の自己論に関する語も見られたが，出現数としては後半の「社会・地域論」の方が多かった。「地域」を「学ぶ」ことや「理解」すること，「徳島県」の「企業」，「地域貢献」やその「活動」について多くの学生が必要性を感じているといえる。県外出身者からは「地元」の「会社」についても知りたいという意見が見られた。前半のキーワードの出現が少なかったことについては本調査が 15 回目の授業時に実施されたことが影響している可能性が高い。

【初年次ゼミ II】

最も多く出現した語は「プレゼンテーション」（※プレゼン，プレゼンテーションと表記されていたものは統一した）で，「思う」「学ぶ」「必要」「もう少し」といった語が関連付けられていた。さらにコミュニケーション能力を身に付けたい，スライドの作り方，レジュメ・資料の作成を学びたいといった意見も関連して見られた。学修項目としてプレゼンテーションの次に頻度が高かったのは「ディベート」で，自分の意見を相手に伝えることをもっと身に付ける必要があると考える学生が多いようだった。なお，「レポート」と「書き方」が独立していた。レポートの書き方

は前期開講科目の初年次ゼミ I で学ぶ項目であるが，初年次ゼミ II は引き続きの授業であるため，本科目でもっと学びたいと考えた学生もいたようである。

表．各科目の自由記述の頻出語

社会人基礎力入門

抽出語	出現回数
敬語	83
学ぶ	82
思う	64
マナー	53
社会人	33
社会	29
正しい	28
使い方	26
必要	22
詳しい	15
身	14
もう少し	12
自分	12
出る	11
対応	11
礼儀	11
言葉遣い	10
使える	10
時間	9
チームで働く力	8
基礎	8
考え抜く力	8
電話	8
ルール	7
人	7
力	7
今	6
使う	6
授業	6
相手	6
知る	6
勉強	6

初年次ゼミI

抽出語	出現回数
レポート	110
書き方	84
学ぶ	51
論文	46
書く	41
思う	40
文章	33
構成	23
力	17
自分	15
書ける	15
身	15
引用	14
時間	12
必要	11
参考文献	10
仕方	10
正しい	10
方法	10
理解	10
もう少し	9
言葉	8
知る	8
苦手	7
内容	7
ルール	6
意見	6
授業	6
情報	6
体裁	6
文	6

初年次ゼミ

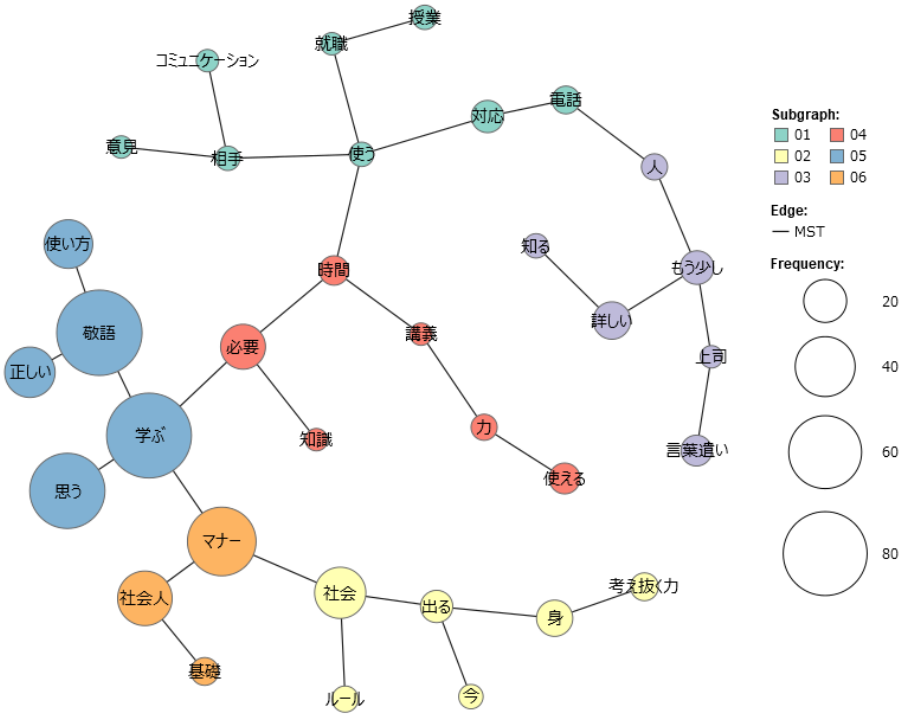
抽出語	出現回数
学ぶ	24
思う	20
レポート	15
プレゼンテーション	10
時間	8
授業	7
書く	7
発表	7
書き方	6
必要	6
もう少し	5
意見	5
出来る	4
勉強	4
グループワーク	3
パワーポイント	3
自分	3
情報収集	3
前	3
相手	3
大学	3
伝える	3
難しい	3
日本人	3

自己と社会・地域論

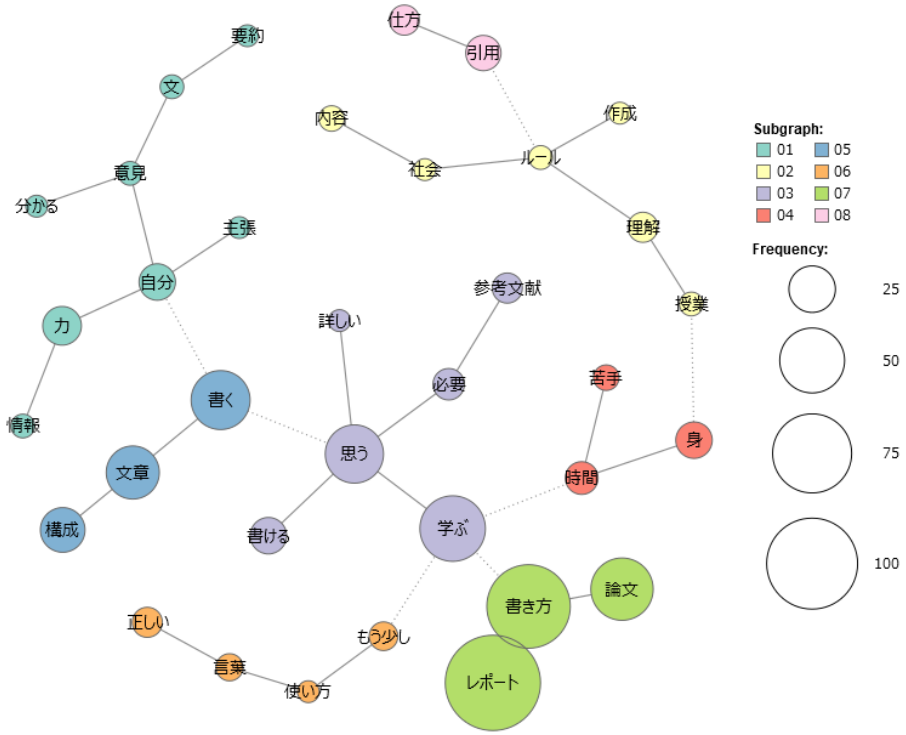
抽出語	出現回数
徳島県	45
企業	37
学ぶ	32
思う	31
地域	23
地域貢献	19
知る	18
自分	17
活動	12
コミュニケーション	8
会社	8
感じる	8
産業	8
人	8
地元	8
コントロール	7
深い	7
ストレスコントロール	6
意見	6
自己	6
自己理解	6
詳しい	6
地域社会	6
地場産業	6
必要	6
円滑	5
考える	5
人間関係	5
他者理解	5
伝統	5
理解	5

初年次ゼミII

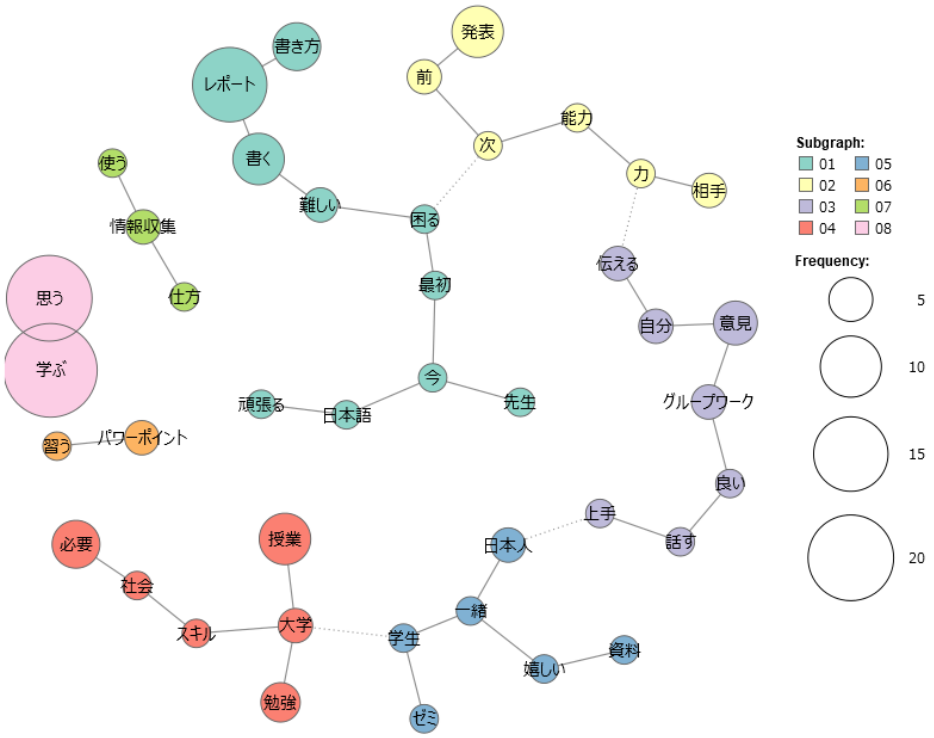
抽出語	出現回数
プレゼンテーション	68
ディベート	31
思う	27
学ぶ	23
意見	20
自分	18
パワーポイント	17
ディスカッション	16
発表	16
作成	15
仕方	15
資料	13
相手	13
伝える	11
必要	11
作り方	10
力	10
レポート	9
書き方	9
能力	8
もう少し	7
コミュニケーション	7
人	7
グループ	6
身	6
スライド	5
時間	5
伝わる	5
レジュメ	4
練習	4
論理	4
話し方	4



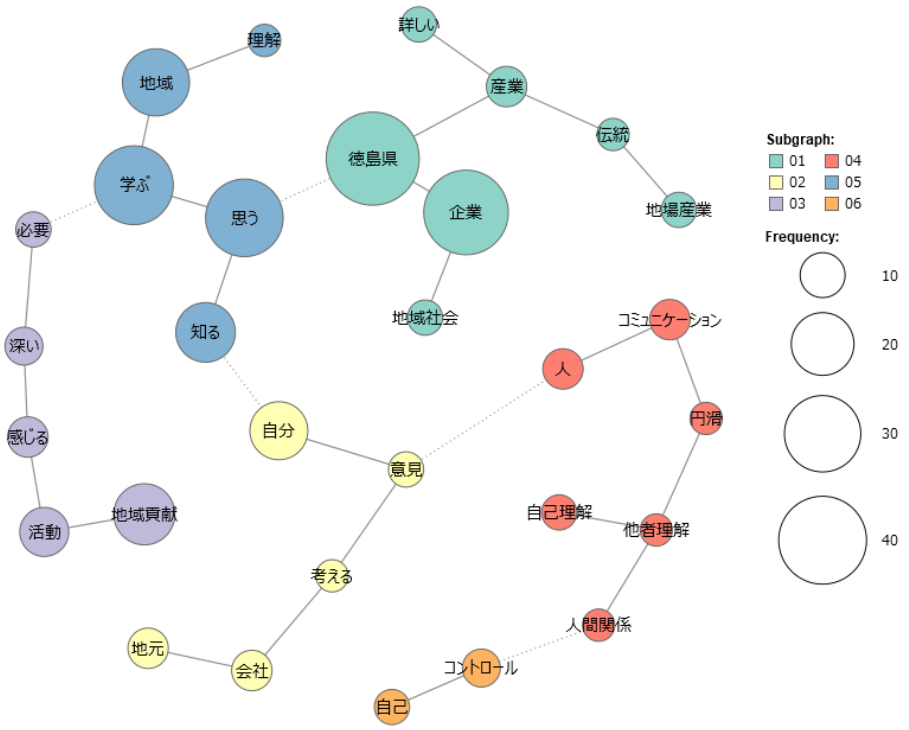
図．社会人基礎力入門に関する自由記述の共起ネットワーク図



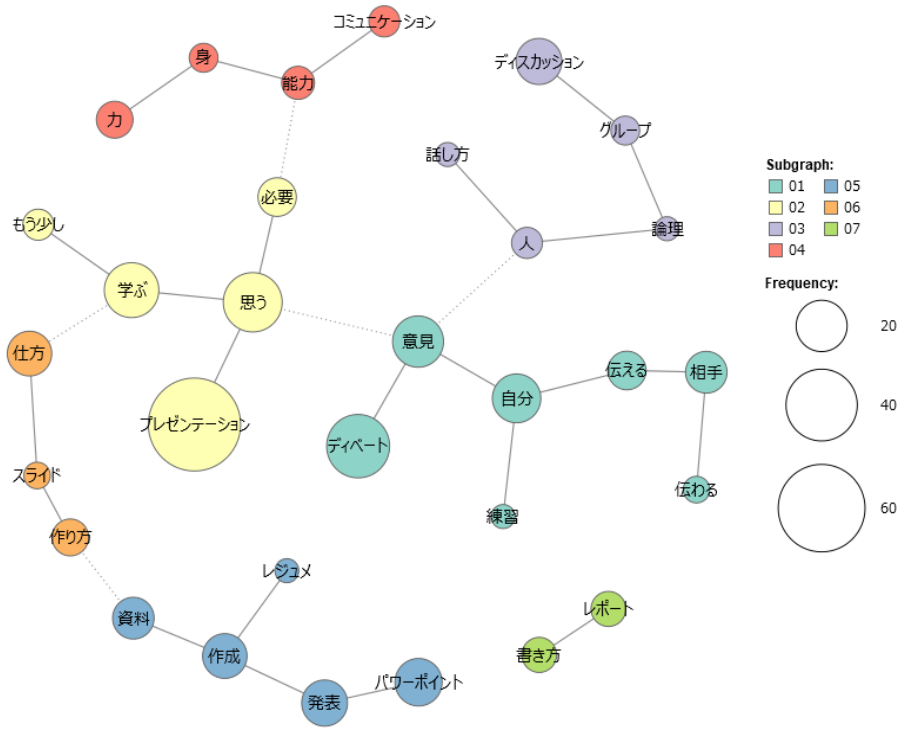
図．初年次ゼミⅠに関する自由記述の共起ネットワーク図



図．初年次ゼミに関する自由記述の共起ネットワーク図



図．自己と社会・地域論に関する自由記述の共起ネットワーク図



図．初年次ゼミ II に関する自由記述の共起ネットワーク図